

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立大石小学校

調査目的:◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【結果について】

<学習に関わる強みと弱み>

国語科・算数科共に白紙の無回答は少なく、問題を解こうと頑張っていた様子が答案用紙から伝わってきました。質問紙でも「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」項目では、両教科共に70%以上が、努力したと回答しています。

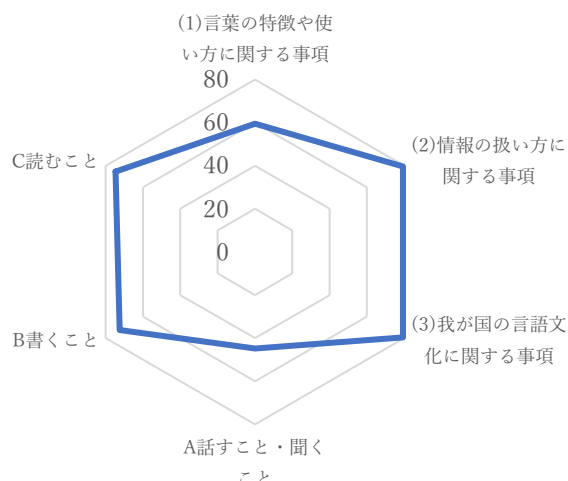
国語科

○資料を読んで、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書いたり、物語を読んで、心に残ったところとその理由を書いたりする問題の正答率が70%を超えており、書く力の向上が見て取れます。

△複数の資料や文章から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして答えを導く問題で課題が見られました。内容を検討してから伝える力を付けていく必要があります。

△文の中の主語と述語の関係を捉えることに課題が見られました。文の意味を正しく理解できていないことがあると考えられます。

国語 平均正答率 本校



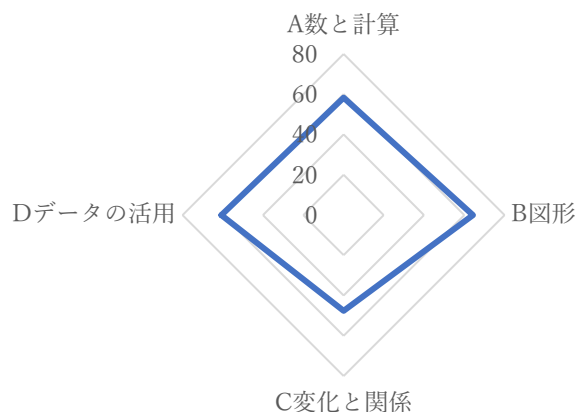
算数科

○図や表、グラフなどから読み取った情報を活用して書くことが求められた記述式問題では、無回答率が5%未満で意欲的に問題に向かっています。

△「変化と関係」領域について課題がありました。数量の関係がつかみにくい問題では、文脈に沿って図や式などを用いて具体的にイメージする力が必要となっています。

△「数と計算」領域の小数のわり算の正答率が約50%でした。また、基礎的な計算ができて、生活場面を想定した問題では、必要な情報を整理し、解き方の道筋を考えることに課題が見られた。

算数 平均正答率 本校



<生活に関わる強みと弱み>

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目では、質問紙調査に回答した全員がそう思う・どちらかと言えばそう思うと回答していました。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をした児童も多く、多様な考えを認める寛容な雰囲気の中、学校生活を送っていることが見て取れました。

○「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目でも、肯定的な回答をした児童が多くいました。

△「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目で、否定的な回答がありました。

△「休日に、家庭で学習に取り組んでいる時間が1時間より少ない」と回答した児童が半数いました。「放課後や週末の過ごし方では、8割以上が「家でテレビや動画を見たり、ゲームや SNS をしたりしている」と答えています。

【指導の充実に向けて】

- ・ 一人一人の学習状況を丁寧に把握し、基礎基本の定着、学習の積み上げを大事にしていきます。また、家庭との連携を図り一人一人に合った支援を行い、子どもたちが意欲的に学びに向かえるような肯定的な声かけをしていきます。
- ・ 「めあて」と「振り返り」を大切にし、子ども自身がこの時間に何を学ぶのか、学んだのかが表現できるように意識して授業を行います。
- ・ 複数の条件を踏まえて書くことや内容の読み取りに課題が見られたことから、各教科において、自分の考えが伝わるように複数の資料を活用して書いたり、話したりする場を設定します。また、市立図書館とも連携し、さまざまな本に触れられるようにして読書活動の充実を図ります。
- ・ 文章と図を結び付ける、書かれていることを図で表現するなど、書かれていることがイメージしやすくなるよう、内容を整理する場面を増やします。
- ・ 学習した内容、身に付けた知識を活用できる学習場面を設定したり、日常の具体的な場面に対応させながら考える課題を設定したりして、より深い学びとなるよう努めていきます。
- ・ 引き続き、学校全体で子どもたちの様子を見守り、子どもたちが安心感を持って学校生活を送ることができるよう、相談しやすい環境作りに努めます。

